

第1回長浜市部活動の地域移行推進協議会 要点録

I. 開催事項

1. 日 時

令和5年5月9日（火）10:00～11:35

2. 場 所

長浜市役所5階5-A会議室

3. 出席者

中川順博、大橋さえ子、八田忠士、橋本孝子、片山ひろみ、北村常男、磯崎真一、服部雅史、高田清雄、小川淳三、竹中正博、川瀬智隆、大音洋、内藤正晴

4. 欠席者

なし

5. 事務局職員

長浜市教育委員会：山岡万裕

文化スポーツ課：川瀬智久、野澤達也、内藤繁、涌井陽子

すこやか教育推進課：河合保、藤田哲夫、佐々木篤也、曾我高和、前田光治

6. 傍聴者

4名

II. 会議次第

1. 開会

2. あいさつ

3. 委員委嘱

4. 自己紹介

資料1

5. 趣旨説明

資料2

6. 議事

(1) 会長・副会長の選出について

資料2

(2) 長浜市の学校部活動の状況について

資料3

(3) 実証事業における各モデル的部活動について

資料4

(4) 長浜市部活動の地域移行推進計画の策定について

資料5

(5) その他

資料6

7. 閉会

※配布資料

- 資料1：長浜市部活動の地域移行推進協議会委員、事務局名簿
- 資料2：長浜市部活動の地域移行推進協議会設置要綱
- 資料3：長浜市の学校部活動設置状況について
- 資料4：部活動の地域移行だより Vol.2
- 資料5：学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン【概要】（スポーツ庁・文化庁）
- 資料6：今後のスケジュール（予定）

Ⅲ. 会議内容

◎開会あいさつ（教育部長あいさつ要旨）

- ・少子化の中でも将来にわたり、生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる環境を整える必要がある。
- ・「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づき、本市の実情に合った、部活動の地域移行推進計画を策定すべく、新しい仕組みを考えなければならない。
- ・推進計画の策定にあたっては、地域の子どもは地域で育てるとの考えのもと、学校と地域が連携し、地域の協力を得ながら進めることが不可欠である。
- ・そして何よりも、子どもたちの思いを第一に考え、保護者、教員にも不安を感じさせないように丁寧に進めていきたい。
- ・本市の実情に応じた持続可能な部活動の在り方と学校の働き方改革を推進し、学校教育をさらに充実させていきたい。

◎委員委嘱

- ・委員の任期は、本日、令和5年5月9日から令和6年3月31日までとし委嘱した。

◎自己紹介

- ・委員、事務局職員が自己紹介を行った。

◎趣旨説明

- ・長浜市立中学校及び義務教育学校後期課程の生徒にとって望ましい部活動の環境の構築と、中学校における働き方改革の実現を図る観点から、中学校における部活動の段階的な地域移行に向けた課題に総合的に取り組むため、本推進協議会を設置するものである旨の説明を行った。

◎議事

(1) 会長・副会長の選出について

- ・会長に長浜市スポーツ協会の中川順博委員、副会長に長浜市民芸術文化創造協議会の磯崎真一委員が選出された。

(2) 長浜市の学校部活動の状況について

- ・資料3に基づき本市の各学校の部活動の設置状況等について説明を行った。
- ・また、合同チームによる部活動の活動状況、外部指導者の設置状況について説明を行った。

(3) 実証事業における各モデル的部活動について

- ・資料4に基づき実証事業における3つのモデル的部活動についての説明を行った。
- ・1. 合同部活動（複数の学校が合同で部活動を実施するもの）。
- ・2. 学校設立型の文化・スポーツクラブの設置・運営（学校内に地域移行の受け皿となる外部指導者等の組織を設置し、学校と連携しながら活動を実施するもの）。
- ・3. 地域の文化スポーツクラブ等による運営（地元のスポーツクラブが実施するもの及び長浜文化スポーツ振興事業団が吹奏楽クラブを設置し運営するもの。）の3つのモデルを今年度実証事業として実施し、また、アンケートや現場の声を聞き取りながら課題整理（指導者の人材確保、教員の兼職兼業の問題、保護者の経済的な負担、怪我や事故があったときの責任の所在、練習場所移動方法や大会の参加のあり方等）を行う。

(4) 長浜市部活動の地域移行推進計画の策定について

- ・資料5に基づき長浜市部活動の地域移行推進計画の策定について説明を行った。
- ・学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方を示し、まずは休日における学校部活動の地域連携や地域クラブへの移行に向けた環境整備を段階的に進めるため、国のガイドラインや県の方針に沿って長浜バージョンの地域移行の道筋となる長浜市部活動の地域移行推進計画を令和6年3月に策定したい旨の説明を行った。

(5) その他

- ・今後のスケジュールを説明した。
- ・令和6年3月末の策定を予定しているが、県の計画・方針の策定期間によっては、策定期間の変更があり得る旨の説明を行った。

IV. 委員意見等

- ・学校現場としては、クラブチームとの兼ね合いの部分と大会への参加資格、出場資格の部分が非常にデリケートで難しい現状がある。
- ・部活動の現状として、少子化やクラブチームへの加入等によって、団体競技が厳しくなっている。
- ・教員の意識もそれぞれ変わってきている。地域によっても様々である。
- ・学校現場として、問題を一つひとつ解決しながら子どもたちがよりよい形でスポーツに参加できるような地域移行になれば良いと思う。
- ・教育的配慮がない地域のクラブチームを大会へ参加させるようなことには問題がある。
- ・教育的配慮がなされないと子どもが犠牲になってしまう。長浜モデルの地域移行とは、子どもに寄り添った、教育的配慮の視点が必要である。
- ・地域移行は、部活の顧問の先生が、土日や放課後も報償をもらいながら指導するのが、一番スムーズにいくと思う。
- ・部活動のない種目は、総合型クラブで子どもたちにスポーツする場を提供し、その総合型クラブで大会に参加していくのがよいのではと思う。
- ・子どもが減るということは先生が減るということ。先生も減っていくので今のまま部活動を維持することが難しい状態になっていく。
- ・熱心な先生もおられるのは確かで、熱心な先生の続けたいという思いを尊重し、そういう先生が継続して指導できる環境を整えて欲しい。
- ・指導者が確保されないとスポーツの地域移行はあり得ないのかなと思う。よって、現状把握が必要である。
- ・文化系のクラブは、様々な多様性をどう確保していくかが一番の課題である。
- ・地域のクラブは、金銭的な部分をどう確保していくのが課題である。また、講師もボランティアでは長く続かないので、どのような視点で確保するのか、どう支えていくのが課題である。
- ・文化芸術、スポーツの本質的な部分は、生涯を通じてこの楽しむこと。そして自分たちの生活を豊かにすることが本当に大事である。
- ・競技という部分と長く続けるという部分の視点も持っていくことが大事である。
- ・子どもたちが多様な体験活動することは大事なことである。
- ・スポーツ協会やスポーツ少年団など様々な団体の指導者が課題と考えているのは、大きな事故、事件等が発生した時の責任問題である。
- ・部活動の受け皿を、クラブチーム、総合型クラブやスポーツ少年団のチームが担うとなると、事故等が発生した時のリスクを非常に懸念されている。
- ・地域のクラブに対しては、リスクを明示し、丁寧に説明していくことで、地域移行はより前向きに進むと思う。

- 地域クラブの指導者は、地域移行について、まだぼやっと理解している状況だと感じる。
- 地域移行は、本当に課題がいっぱいで大変だと思っている。今日改めて感じた。
- 部活動を民間に移行するという事は、投げてしまう訳ではなくて、繋がっていかなければならない。
- 部活動は学校教育活動であり、受け皿の競技団体が教育活動であることをしっかり理解していただかないといけない。
- 受け皿の競技団体は、勝ち負けだけにこだわるとか、教育から外れるようなことでは困る。
- 教育ということを理解していただけるような受け皿であることが大事だと思う。
- スポーツ協会等から学校部活動へ指導者を派遣した場合は、ただ人を技術的に派遣するだけではスポーツ協会の意義がそこにあるとは思えない。やはり学校教育と社会教育の部分が繋がっていかなければならないと思う。
- 地域移行は、子どもたちが不幸にならないように進めることが第一である。
- この会議には当事者の中学生本人がいない。その声を聞くためのアンケートは大切である。子どもたちの本音の部分が実際聞けるアンケートとして欲しい。
- 先生へのアンケートも実施していただくとより良い方向へ行くと思う。